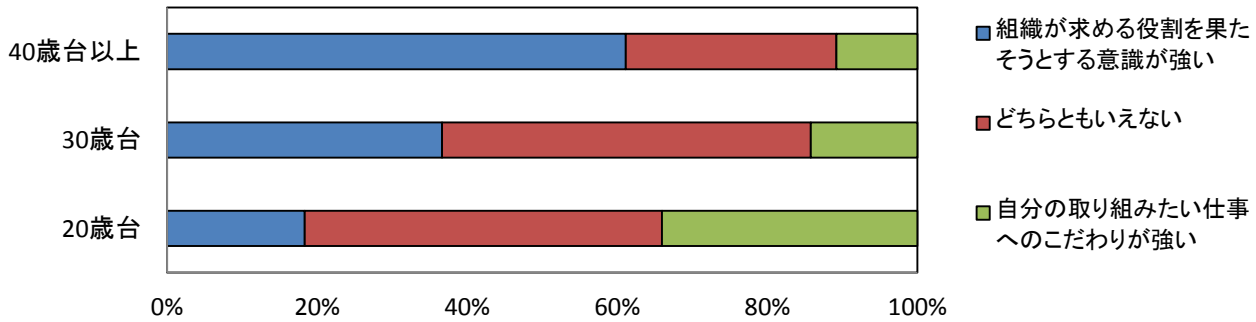
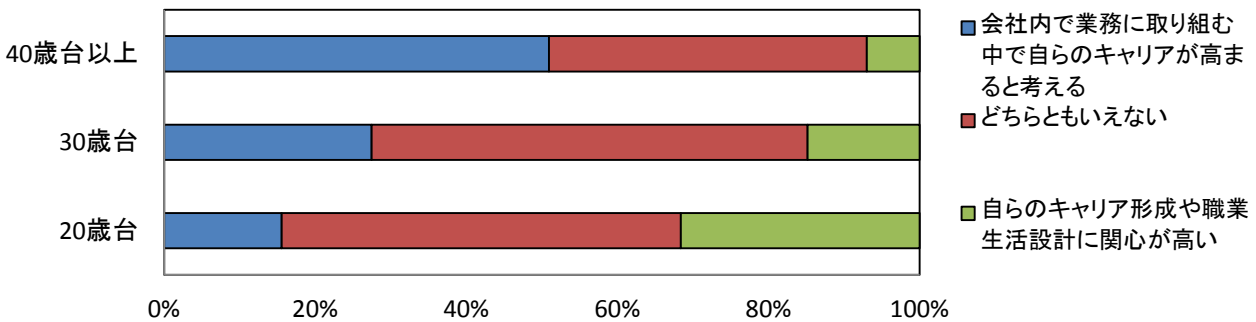


世代ごとにみた入職初期の資質

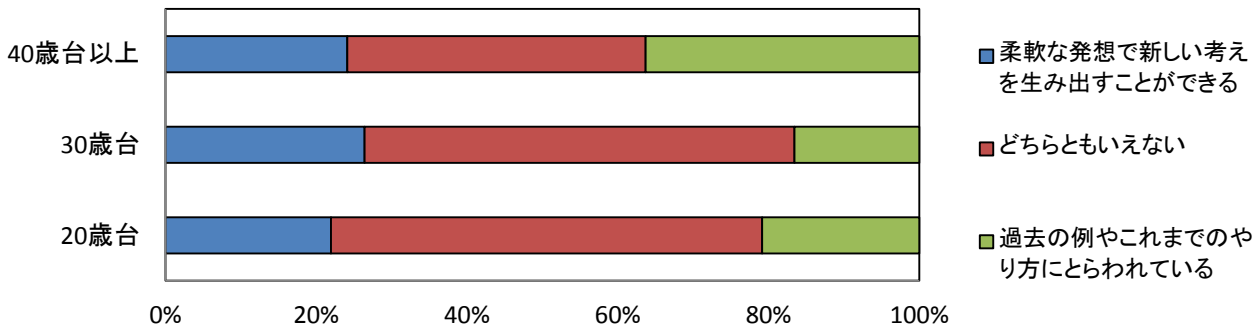
組織が求める役割を果たそうとする意識が強い⇨自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い



会社内で業務に取り組む中で自らのキャリアが高まると考える⇨自らのキャリア形成や職業生活設計に関心が高い



柔軟な発想で新しい考えを生み出すことができる⇨過去の例やこれまでのやり方にとらわれている



資料出所 (独)労働政策研究・研修機構「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」(2011年)

(変化する職業意識と企業内での世代ギャップ)

- 仕事をするために組織に所属するという経験を持たない若者にとって、働くことの意味をつかみ取ることは容易ではない。働くことには、所得を得ること、自らの能力を発揮すること、協力し合い社会に参加することなど様々な側面があり、それらがときがたく結びついている。修学年限が上がることや組織的な参画の程度が低い非正規雇用ばかりが拡大することは、現代の若者の就業意識の形成にとって新たな障害をもたらしている。
- 社会環境が変化の中で、意識面の世代ギャップも懸念され、組織への所属をめぐる意識は、世代間でギャップが拡大している可能性がある。企業の人事担当者に新入社員の特徴を世代ごとに答えてもらった調査があるが、かつての若者は、組織が求める役割を果たそうとする意識が強かったが、最近では、自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強くなっていると見られている。また、若い世代ほど自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い。